

# 令和4年度 第3回庄内町振興審議会【議事録】

日 時：令和5年3月22日(水) 午後6時半

場 所：役場 B棟2階 会議室1

**出席者：**門松秀樹会長、梅木均委員、高橋義夫委員、加藤修一委員、海藤喜久男委員、渡會正委員、吉田勝紀委員、吉田正子委員、佐藤道子委員、加藤容委員、阿良直美委員、渡部菜穂子委員、佐藤あゆ子委員

(事務局) 佐藤企画情報課長、阿部企画情報課長補佐、岡本主任、伊藤主任

**欠席者：**金子尚毅委員

## 1 開 会 18:32 佐藤企画情報課長 開会・進行

本日の会議で答申案を決定することになる。御協力のほどよろしくお願ひしたい。

## 2 会長あいさつ

先週の月曜日に各分科会で議論いただいた内容をもとに本日、答申案を取りまとめることになる。庄内町が直面している課題や解決すべき問題の洗い出しなどを行うための大切な会議になりますので、審議のほどよろしくお願ひします。

## 3 報告事項等

- ・報告事項なし

## 4 協議

### (1) 各分科会報告

- ・総務分科会
- ・総務分科会会長報告

【委員】(1)について、内容はよいと思うが、何を指しているのかわかりづらいという感じを受けました。リーダーを育成することを目指すということでよいのか。最後に記載してある女性も参画しやすい環境とはどの部分を指すのか。

【分科会長】女性の参画については、話し合いの場全般についてである。

【会長】住民の中の「リーダー」については、消防団に関するものである。普段から訓練を受けていないと消火栓や消化用具の使い方がわからない。住民の自助の部分でリーダーを育成することが重要と考え、消防団の活動で育成が可能では、という話になった。消防団の活動は参加者数が低調になってきている。避難所で子どもの面倒をみる必要がある場合や支援物資等の分配等、女性ならではの視点で気付くこともあるため、このようにまとめた。

【委員】今のように説明を聞けばわかるが、文章をみただけでは何のリーダー育成を求めるのかわかりづらかったので質問させていただいた。

【委員】近年の異常気象が増える中で、このような表現でもけっこうだが、積極的に国に働きかけて氾濫がおきない河川の整備等を実施してもらうなども答申に入れてよいのでは。

【会長】総務分科会では、消防団の組織化を中心に文章を検討した。工事部門は産業建設分科会の方であげることになると思われる。このあと議論いただきたい。

- ・産業建設分科会
- ・総務分科会会長報告

【委員】(3)について、内容は十分理解できるし大事だと思うが、文章の始まりが米や園芸作物という言葉

葉で始まり、大豆や麦が入ってこない。転作は大豆や麦の品目が多い。米と限定しないで米穀という表現にできないかと思った。また、「連携協議」の中に県や国への「働きかけ」という意味も含まれているのかどうか。今の農政では対応しきれていないところがある。細かく言うと、この地域でも以前はどこでも麦を作っていたが、収穫の時期に雨が降るためカビが発生するという問題があってこの地域には麦栽培は適正でないことがわかった。米を米粉にしても現状では小麦粉をまぜないとパンやうどんができないが、米粉だけでも作れるものが福岡県の方で開発されたと聞いた。取り組みに応じて補助金が出るという事例も聞いた。山形県においてもそういったことができるよう、「県や国への働きかけ」という意味も含む文章にしていただければと思う。

【分科会長】農林水産については国や県を含む補助金に関わる様々な事業が実施されている。分科会として話し合ったのは新規就農者数はどうか、担い手はどうか、花きの生産量はどうか、という視点であった。専門的な視点でご意見いただければと思う。

【委員】米、花、畜産が農業分野と思う。豚の畜産農家も厳しいと最近言われたことがある。畜産については何も触れていないが載せなくてもよいか。

【分科会長】ベンチマークに沿って意見することになるので、広げることができない。どうしたら課題が解決できるか、解決策まで我々が考えるのは困難。

【会長】国の規模の補助金となると、庄内町の振興審議会の枠を超えてしまう。県や国への呼びかけということについては、後ほど議論いただきたい。

## ・文教厚生分科会

### ・総務分科会会長報告

【委員】千河原地域には、やままつりという伝統的なまつりがあるが、少子化で子どもが6人くらいしかない。子どもが地域外の友人を連れてきてまつりに参加させたことがある。外部の方を呼び込んで参加型観光として活用することもできると思われる。

【分科会長】やままつりはかなり大きい行事なので、何とか続けたり広げたりするべきと考える。農村芸能はずっと続いている地域もある。やままつりも同様と思う。

【委員】以前は新庄から列車やバスに乗って観光客がまつりに来たことがある。

【事務局】観光分野で旅行会社と連携して行ったイベントと思われる。

## (2) 答申書案について

【会長】5分程度お目通しいただいた後、議論いただきたい。

【事務局】内容が重複するものについて、まとめて記載したものがあがるが、別途抜き出した方がよい等の意見も含めて議論いただきたい。

【会長】まずは総合計画に関することについて、全体意見についてはいかがか。

【委員】(5)の「を図り」のあとの文章が繋がらないので修正した方がよい。

【事務局】「多様」を削除する。

【委員】(7)の削除されている「外国人の労働環境についてしっかり現状を把握するとともに」という部分は残してほしい。現状把握がなされていないという意見が分科会で出されていたため、その言葉は残してほしい。

【会長】海外から働きに来ている方に対して企業経営者の扱いや生活環境がよくないなどの場合もあり、人としてその扱いはいかなものかという問題が見えてきている。外国人労働者についての「分野を超えた現状把握」が必要である。外国人が二度と日本に来たくないと思ってしまうような環境は問題である。

【事務局】この文言は残すこととする。

【委員】結局この先人口が減っていくことがわかっているのに「少子高齢化の加速が見込まれる」という文言では悠長と感じる。既に人口減少は加速している。早急に対応すべきであるという緊急性を入れた方がよい。

【委員】賛成です。

【会長】全体意見の(2)は少子高齢化が加速「している中」という、もう一步踏み込んだ意見に改めると

いうことでよいか。

【委員】異議なし。

【委員】SNS と LINE の件で表現にバラつきがあると思われる。「公式 LINE アプリ等を含む SNS」など。LINE に限定する必要はないのかと思うがどうか。

【委員】文教厚生分科会でいう SNS は動画活用の意味合いが強い。SNS 活用の中でも「動画」という配信方法を強く推進してほしい。

【委員】SNS も多様になってきているため、文章ですばやく発信できる良さがあるものや、動画に特化したものなど、アプリに合わせた方法で情報発信していくのはどうかという意見を分科会で発言した。「等」という言葉を使って文章を合わせていけばよいのではないか。

【会長】答申案の中の SNS の表記のしかたについて、どう統一していくのかという議論。LINE であれば高齢の方も使える方が増えてきた。LINE はワンストップで情報確認ができるメリットがある。他の SNS は動画に強い等のメリットがある。答申書全体としてどう整理・統一するのか。ご意見いただきたい。

【事務局】表現の統一ということになると、町で情報発信するものは SNS だけでなくホームページ等もある。今までだと「ホームページや SNS 等」という言葉にしていた。

【会長】インターネットメディアという言い方であれば、全体を統一できる。

【委員】賛成。

【会長】標記のバラつきがあるところは「ホームページ等インターネットメディア」と統一してよいか。

【事務局】文教厚生分野 (3) については「スマホ教室や SNS の安全な使い方」についてはそのままの表記でもよいと思われるがいかがか。

【会長】他の項目と意味合いが異なる部分なので、このような個別具体的な話については表現を残すということよいか。

【委員】異議なし。

【会長】その他、総合計画答申にかかる意見やご指摘はあるか。

【委員】なし。

【会長】外国人の労働環境の把握についてを削除せず残すこと、SNS 等の表示の統一、教室等の具体的な話については別途表現とすることよいか。

【事務局】分科会報告に対する意見で出された産業建設分野 (3) の「米」については「米穀」に修正した方がよいか。

【会長】3 ページ 3 (3) は「米穀や園芸作物・畜産」という文言にしてよいか。

【事務局】3 ページ 3 (3) の「連携・協議し、」というところは「十分連携し、」という文言ではいかがか。

【委員】「協議」という言葉は必要ないと思われる。

【会長】総合計画についての答申は今出された内容で修正いただくこととする。

【会長】庄内町まち・ひと・しごと創生事業についてはいかがか。

【委員】5 ページの 5 (2) の「また、」も削除でよいか。

【事務局】削除する。また、「町民へのわかりやすい情報発信に努めること」は既存の課題であり創生事業に関するものではないため、最後の 2 行は削除してもよいと思われるがいかがか。

【会長】意見はないか。

【委員】意見なし。

【会長】5 (2) についてはこの 2 点を修正することとする。

【会長】6 の庄内町過疎地域持続的発展計画についてはいかがか。

【委員】(1) にふるさと応援寄附金事業について、お米などの特産品の良さを伝えるのではなく、庄内町の良さを伝えることで寄附をいただけるような PR をした方がよいと思うが、皆さんの意見をお聞きしたい。

【会長】町の特産品を売るのが目的ではないので、町そのものの良さを伝えるというご意見かと思うが、その点についていかがか。

【委員】ふるさと納税について、自分の子どもが県外に就職して出ていったが、お米がおいしいので実家から送ってほしいと言われた。この町の良さを伝えるためのひとつとして「お米」という従来品の良

さも伝えながら、町外在住の庄内町出身者も欲しいと思うような「お米」のPRがあってもよいという思いで提案したもの。

【委員】同じようなことを言っているのだと思うが表現が難しい。

【会長】庄内町の良さをPRしたいということに変わりない。物だけに特化した表現になってしまうため「町の良さ」をPRという言い方になるような表現にしたいということだと思われる。

【委員】庄内町の良さを伝えるために、お米などの従来の特産品の良さを伝えるという言い方にしてはどうか。

【会長】町そのもののPRという文言を入れないと個別の商品のPRになってしまうことになる。

【事務局】この点は事務局と会長に一任いただいてよいか。

【会長】物というより庄内町の良さを伝えるという意義の文章に調整するというでよいか。

【委員】特産品を通じて町の魅力を発信していくという文言でいかがか。

【委員】若者の視点も取り入れながらという文言があるが実際はどんな世代が寄附するのか。

【委員】若者もふるさと納税している。ひとり暮らしの学生が米を入手するのにふるさと納税している例もある。若者にもPRしていく必要性はある。

【委員】他の町で「困っている」というような文言があり、応援したいという気持ちが湧いてふるさと納税している。「応援したい」という気持ちを醸成するようなPRにするべきと思うし、そういう流れになればいいと思う。

【会長】他に5、6について意見・指摘はあるか。

【委員】特になし。

【会長】5(2)「また、」以下を削除する。6(1)の文章の内容を庄内町としての良さ、応援したくなるようなPRのしかたという意味合いになるよう文言を調整して答申を作成する、ということになる。次回以降の会合はない。

【委員】5ページ目6(3)のWi-Fiについては無料で使える環境がほしいので「Free」という文言を足してもらえないか。

【会長】民間事業者による有料のものではなく、行政による無料もしくはFreeの環境ということで整理してよいか。

【委員】異議なし。

【会長】では、そのような形で答申のとりまとめをさせていただく。その他ご意見あるか。

【委員】特になし。

【会長】以上で協議を終了する。ご審議いただいた内容で答申書を作成し、町長に提出する。長時間にわたりご議論ありがとうございました。

## 5 その他

## 6 閉会 20:35